



素晴らしい人が集う場所。きっと、  
**千歳の宝物**になるでしょう。

まちライブラリー・サポーター  
**石橋 光子 さん**  
Mitsuko Ishibashi



**住** みよさから、千歳に移住して40年が過ぎました。タウンプラザが「千歳デパート」だったころを思うと、テナントが変わるたびに寂しさを感じていました。久しぶりに訪れて、その変わりようにびっくりしました。

「寄付で集まった本の民間図書館?」「おしゃべり、飲食OK?」正直いさう、半信半疑でした。しかし、まちライブラリーの「千歳市民交流の場」という目的に、熱意ある人と人が集い、一つのことを作り上げていく過程に感動して、私もサポーターの一人になりました。



**いしばし みつこ さん**  
平成29年4月に自宅の6畳ひと間に《まちライブラリー@ゆうまい絵本文庫》を開設/自由ヶ丘5-2-15/☎(23)8224  
※赤い三角屋根が自印です。

子どもたちのためだけではなく、絵本の音読は脳トレにも効果があるので、将来は地域の高齢者が集う「認知症カフェ」を目指したいと考えています。

私は団体ではなく、個人としての活動です。(絵本deつながるの読み聞かせや、月1回の企画講座「千歳を知ろう」など、スタッフの手助けが有り、74歳になる私にも、「知らないことがまだまだある」、「イベントなどを」生み出すことができると、驚きと発見、そして充実の日々を過ごしています。

まちライブラリーの  
常連の皆さんに聞きました!



森 大聖さん (由仁町) 新川 内佳さん (市内) 村上 久瑠実さん (恵庭市)

【森さん】週6日は勉強にきています。家ではゲームや漫画などの誘惑が多いので、最適な空間ですね。【新川さん】ほかにもたくさんの方が勉強していますので、自分も頑張ろうという気持ちになります。【村上さん】スタッフの皆さんが親切で、声をかけてくれたり勉強も教えてくれたり…《人があったか図書館》ですね。

「千歳を知ろう」では、その道に通じている方と、ここにへ伺い、講師役をお願いして回っています。活動を通じ、人との出会いからわかったことは「千歳にはこんなに素晴らしい人がたくさんいる」と

「サード・プレイスとしての魅力とネットワークの広がり」  
タウンプラザでは、勉強する学生、一人で読書をしているおじいさん、絵本を楽しむ親子など、自宅職場・学校に次ぐ第3の居場所として、それぞれの時間を過ごしながら同じ空間を共有しています。また、スタッフは、館内での個人イベントの企画や開催、地域でのライブラリー開設の相談などのサポートを行っています。

1周年記念イベントでは、会員やサポーターの人脈を通じて、講演の登壇者12人を全道から短期間で招集しました。人のつながりが織りなすネットワークの力が生かされる場としても注目されます。



Yoshimitsu  
Isoi

まちライブラリー提唱者  
森記念財団  
普及啓発部長  
**磯井 純充 さん**

まちライブラリー@千歳タウンプラザは、市民が参加しながら一緒に育てていくことを期待されて誕生しました。施設の企画、設置から運営まですべて民間で実施されたのも珍しいケースだと思います。まちライブラリーの魅力は、「私なんか何もできない」と思う方でも、たった1冊、本の奇跡で場づくりに参加できることです。気軽に立ち寄る活動拠点として、1人でも多くの方が千歳のまちに関心を持ち、主体的に参加してくれることを期待しています。私も、毎月まちライブラリーのサポーター会議に参加して、市民一人一人の意見を聴き、時には背中を押して、新しい動きが出てくるのを楽しみにしています。

中心市街地の新しい図書館  
**まちライブラリーとは**  
まちライブラリーとは、地域住民が持ち寄った本を、まちのカフェ、オフィス、病院や自宅などの生活の場に本棚を設置し、広く活用することでコミュニティの場づくりを目指す活動のことです。平成23年に大阪、東京ではじまり、現在、530か所で開催されています。

28年12月23日に開設した《まちライブラリー@千歳タウンプラザ》は、床面積800㎡、4万冊の本を所蔵できる国内最大の民間図書館です。貸し出しされる図書には、寄贈者の思いや次に手に取った方の感想を連ねる仕組みが施されているほか、会話や飲食が自由という「気軽さ」と空間演出が、利用者を受け入れられています。

まちライブラリー@千歳タウンプラザ  
<http://machi-library.org/where/detail/2437/>  
開館時間/ 10:00-20:00  
所在/千歳市幸町4丁目30



インターネット・SNS社会の中で  
**現代人は、別のものを求めていると思う。**



まちライブラリー@千歳タウンプラザ  
司書/マネージャー **久重 薫乃 さん**  
Yukino Hisasafage

ひさしげ  
ゆきの さん

平成28年10月に、単身で  
富山県から千歳に移住

昨年、縁もゆかりもない千歳に移住し、現在、マネージャーを務めています。まちライブラリーの最大の特徴は《本》を通じて《人》とつながること。以前は公共図書館で動いていたが、司書の仕事はカウンスラーの外にもあると思ってきた私にとって、まちライブラリーは自分らしくいられる職場です。また、市民の皆さんには、本場に親しくしていただき、転入者にもウェルカムなまちなんと実感しています。

市民と一緒に働く図書館という考え方で、月1回「サポーター会議」を開催し、利用者の視点、主催者の視点などから、新しい企画や運営のことを話し合います。転入前、北海道の方は《シャイ(恥ずかしがり屋)》な方が多いと思っていましたが、老若男女を問わず、「人と関わりたい」、「自分の出来ることで誰かの役に立ちたい」、という熱い気持ちが話し合いを通して伝わってきます。

私は、人と人が直接触れ合うことのないフェイスブックやインスタグラムといったSNS(ソーシャルネットワーク)キングダムの中で、現代人は別のものを求めているのだと思います。それは《つながり》で

ではないでしようか。だからこそ、「人と人のつながり」を大切にするまちライブラリーが、若者も含め市民の皆さんに受け入れられているのだと思うのです。

まちライブラリーは、誰でもどこでも始めることができます。《本の集積》の設置などもご紹介しています。「コミュニティの場づくり」を広げていきたいですね。人と人が出会い、まちなかに限らず、まち全体のいきわいにつながると信じています。